

夏の灯

なつのみ



夏の太陽が沈み、空が暮れてゆく中、街の明かりがひとつ、またひとつと灯る様子。

1日の暑さもおさまり、夜の涼しさに安堵してほっとする情景。

日々暑くなる京都盆地ですが、日中の暑さを耐え抜いた夜はいっそ涼しさが際立ちます。

6月中ばかり。肌にとわりやすき湿気の強さと戦って印ます。ムンムンとした湿度、畑に出ると地熱の暑さも相まって汗の量も倍に。



どんよりとした梅雨の時期も終わりを迎え、夏らしいパキッとした空模様が広がってきます。畑のねぎはどこか涼しげですが、人と同じく、京都の盆地の暑さの中で懸命に育っています。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

お待ちせしました、夏葱のお届けがスタートです！

7月からお届けするのは、丹後・美山・亀岡のそれぞれの産地で育った夏葱たち。本格的に、京都北部の産地からねぎの収穫が始まります。その中でも、昨年開設したばかりの丹後農場が今年の夏ねぎ生産の主力になります。昨年の立ち上げメンバーと若手2人という、フレッシュな顔ぶれで収穫を行っていきます。夏でも冷涼な気候で、広々とした自然の中で育った夏葱たちを順次お届け。爽やかでピリッとした風味の九条ねぎ、夏のお料理に活用くださいませ。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

梅雨の悩みと育苗の新しい試み

4月に定植したねぎたちは、6月までは気候の助けもありすくすくと生育します。ですが、梅雨に入ると病害虫の脅威が迫ってきます。この梅雨の時期に守ることができるかどうか、良いねぎをお届けできるかのポイント。数少ない晴れ間を狙って、防除を行い、品質維持に努めました。梅雨時期は、圃場にあるねぎを守ることも大変ですが、それ以上に苗の管理が大変です。昨年も長雨とその後すぐ猛暑のため、苗の出来が悪く、結果的に冬の生産量が落ちてしまいました。

今回はその対策として、苗の成長や定植後も圃場に残り、ねぎの生育を助けてくれる働きがある菌試験を行っています！育苗の段階で水と一緒に菌を与え、その菌を圃場まで連れていき、圃場の土の中でも良い働きが見込めるものです。まだ試験段階なので、これからの試行錯誤は必要ですが、これが上手くいけば病害虫にも強いねぎができるかと思えます。農業削減にも繋がるので、今回の挑戦を実のあるものにしていきます！

—とある日の農人日記。

生育調査に回りましたが、雨の影響がすぐに出るとは思いませんが、葱の顔色が良くなってきたように思いました。ただ、少し成長が早すぎると思われる畑もいくつかあります。通常より大ききめのサイズのねぎも収穫できそうです。(美山エリア・大牧)

美山メンバーで菌試験を実践中！これからの育苗が楽しみです。

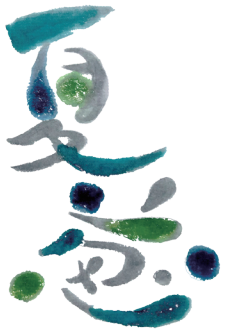
ことねぎだより

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

NO.182
2022年7月号
TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP
4A



こと京都は「野菜を食べよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。